

日本のひなた宮崎 国スポ・障スポ 式典の方向性

式典テーマ

紡ぐ感動 神話となれ

大会を通して生まれる絆や感動が、神話のように語り継がれる大会になってほしいとの思いを表している。

式典の基本的な考え方

- ① 「チームみやざき」の一員である県民が様々な形で参加し、元気・勇気・感動を共有できる式典とする。
- ② 宮崎の魅力を全国に発信し、来県者をおもてなしの心で温かく迎えるとともに参加者の記憶に残る式典とする。
- ③ アスリートファーストの視点に立ち、簡素化を図りながらも創意工夫をこらした式典とする。

式典のめざす姿

宮崎県は、太陽神である天照大御神が隠れ、世界が暗闇に包まれる中、八百万の神々が集って知恵を出し合うことで「光」を取り戻したという天岩戸神話が伝わる地である。2027年、全国から八百万のアスリートが集い、熱戦を繰り広げる「日本のひなた宮崎 国スポ・障スポ」が開かれる。世界を照らした天岩戸神話のように、次の3つの「ひなたの光」で選手を、大会を明るく照らし、日本全国に、そして未来にその光を広げていくような式典を目指していく。



アスリート、支える人、応援する人…人にはみんな、その人のもつ唯一無二の輝きがある。一つ一つの輝きは小さくとも、その輝きを集めれば大きな光となる。個々の違いやよさがつながり、響き合い、より輝くような時間をともに創り上げていきたい。

一人ひとりが輝く大きな光



神話や伝統文化、豊かな自然や食、充実したスポーツ環境など、宮崎ならではの魅力に光をあて、来県者に披露することで本県の魅力はより光彩を放つ。宮崎の魅力で人々を包み込み、もう一度宮崎へ…と感じてもらいたい。

心が弾む多彩な光



アスリートを激励し健闘を讃えるために、またスポーツでつながる人々のために、式典はある。次の大会や、スポーツの未来に資する式典でもありたい。アスリートの、そして、参加する全ての人々の未来につながり明るく照らしていきたい。

未来につながる新たな光



具体的な取組

◆ 会場内外をつなぐ選べる参加方法

→ライブ配信等で会場外からも参加できる。

◆ 手話・要約筆記・音声等による情報保障

→多様な情報保障で誰一人取り残さず楽しめる。

◆ 出演者・アシスタントの多様な人財確保

→性別や年代、障がいの有無等を問わず自分らしく活躍できる。

◆ 光をイメージした効果的な演出

→印象的な演出で参加者の記憶に残る内容にする。

◆ 炬火に神楽の融合等で文化的特色の発信

→火と神楽の親和性を生かした炬火演出で魅力を伝える。

◆ 演技・音楽・映像等でスポーツ発信

→県民による演技等の披露でスポーツ宮崎を印象付ける。

◆ 負担の少ない開催時間帯の検討

→暑い時間を避けた開催時間帯でアスリートの心身を守る。

◆ 式典全体の所要時間の短縮で負担軽減

→拘束時間を減らしてアスリートを含む参加者の負担を減らす。

◆ 入場後の演技披露など選手目線の構成

→全国から集まるアスリートたちに式典を楽しんでもらう。